

2014年9月1日

日本生活文化交流協会

会長代行 白石ユリ子 様

初秋の候、白石様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび「日本ボリビア外交樹立100周年記念日本文化祭」をラパスで開催するにあたり、日本生活文化交流協会（JLC）の皆様のご協力を頂き深く感謝申し上げます。

日本とボリビアとの関係は115年前の移民に端を発しますが、その後、多くの邦人が遠い南米の地で原生林の開墾の苦勞をはじめ種々の艱難辛苦を乗り越えながら今日まで日本とボリビアの交流の歴史を築いてこられました。そのなかで、文化交流こそ人と人とを結び相互理解に何よりも貢献するものであることは論を待ちません。

私が初めてJLCの方々と知己を得たのはキューバの日本大使館で参事官を務めていた2005年、JLCの皆さまが国立ハバナ大学で日本文化紹介事業を開催された時でした。キューバ人学生のみならず、日系人の皆さまも交通の便が悪い中、はるばるキューバ各地からハバナへ来られ、本場の着物ショーや十二単の美しさに見惚れていました。また、書道や華道のワークショップに熱心に参加し、茶道の手ほどきを受けながら「日本を体験した」と感動し、折り紙の「くちびる」の動きに笑い、津軽三味線の音色に聴き入っている姿は、私の脳裏に深く刻まれています。文化の異なる国民同士がお互いを理解し合うためには、それぞれの日常生活で育まれた文化に接することと、人と人との触れ合いが不可欠です。その観点からは、JLCが実施されているイベントが日本と世界の文化の異なる国々との相互理解に果たされている役割は賞賛しても尽きないものがあると思っています。

ボリビアの人々は極めて親日的です。日本の文化や伝統にも高い関心を有しています。アンデスのフォルクローレ音楽をはじめとするボリビアの文化も日本の人々にとっては何とも言えぬ懐かしさと郷愁を掻き立てる魅力あるものとなっております。

今回のイベントに参加される日本の文化の担い手である皆さまにとりましても、ボリビアの国民にとりましても、このイベントが忘れられない経験となり、日本とボリビア両国の友好関係と相互理解を一層深めることは間違いありません。どうぞ宜しくお願い致します。皆様のご来訪を鶴首してお待ち申し上げます

末筆ながら白石様の益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

敬具

駐ボリビア日本国特命全権大使

椿 秀 洋

